

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 5月 14日

公表: 令和 5年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	・道具は常に整理整頓し、十分なスペースをとるように配慮している。	なし
	2	職員の配置数は適切である	3	2	1	・子どもの状況に応じて、事故のない様に職員の配置をしている。	・人数については、引き続き法令を遵守した配置を行うと共に、職員ひとりひとりのスキルアップを図る事でより安全で質の高い療育を提供できるよう努めて行く。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	3	0	・必要な場所には絵カード等を使用してわかりやすいように工夫している。また、余計なものは置かず何が無処にあるのか見渡してわかるようにしている。	なし
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	0	・目標については個別支援計画書の策定会議を実施し、指導員の意見も反映している。また一日の始まりと終わりに、現場改善点やヒヤリハット、当日の来所児童全員の振り返りを全職員で行っている。	・振り返りについては、その日の様子(出来事)のみを振り返るのではなく、目標に対してどうだったのか、アプローチに対しての児童の様子や、それを踏まえ次回はどうな風にアプローチしていくかなど職員全体で意見を出し合い質の高い振り返りができるようにしていく。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	・自己評価アンケートや定期的なヒアリングの際に頂いたご意見やご要望を踏まえながら、可能な限りニーズに沿ったサービス提供ができるよう職員間で検討し、業務改善に繋げている。	なし
	6	事業所向け自己評価公表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0	・自己評価については、公式ホームページ上で公開している。	・評価結果を踏まえた改善目標について、職員間で検討を行う機会を増やして行く。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	0	・第三者評価を基に職員で話し合いを行い改善すべき点については改善に努めている。	なし
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	0	・職員全員が幅広く研修に参加できるように調整している。	・外部研修等で各自が学んだことを事業所全体に共有する機会を持つ事で、職員全体の知識や能力の底上げを図り、共通認識を持って療育にあたるようにして行く。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 5月 14日

公表: 令和 5年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	1	0	・主観的にならないように、支援計画は利用者ニーズを踏まえ、児発管と指導員全員で検討し、作成している。	・利用者ひとりひとりの課題や目標の共通認識を図れるよう、職員全員の個々のアセスメント力の向上と情報共有の強化に努めて行く。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	1	・試験的に専門職(作業療法士や言語聴覚士等)によるアセスメント評価を行い、結果を指導員に共有することで実際の支援に活かしている。	・現在行っているアセスメント評価の標準化に向け専門職(作業療法士や言語聴覚士等)を中心に検討を行っている。
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	なし	・本人支援、家族支援が中心となっており、移行支援や地域支援はまだ行えていないので、今後の課題となっている。
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	0	・支援計画の目標をサービス提供記録票の中に記述する事で、常に計画を意識しながら支援できるようにしている。	・療育中も常に個々の課題や目標を意識すると共に、必要に応じて計画の見直しを行っているよう努めて行く。
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	・専門的な運動プログラムは運動担当者が主となり作成している。また、ニーズに応じ、プログラムを柔軟に対応できるようにしている。 ・どの職員でもリードが取れるよう職員間でプログラムの共有を行っている。	なし
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	・運動はクラス毎、週毎にプログラムを変えるだけでなく、特性に応じ、またその日の子どもの様子に応じてもフレキシブルに変えている。季節に合わせたイベントでは子どもの様子を見ながら、状況に応じて提供している。	なし
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	6	1	0	・個別活動のほか、ルール遊びやチームスポーツなど皆で関わりが持てる集団活動のプログラムも提供している。現在はコロナ禍ということもあり、感染対策をした上で、できる範囲で集団活動を取り入れるようにしている。	なし
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	・支援開始前には当日来所児童全員の前回活動時の様子や配慮事項の確認、プログラムの共有、指導員の配置(役割分担)の確認等、念入りな打ち合わせを毎回行っている。	なし
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	0	・支援終了後には一人ひとりの子どもの様子を振り返り、書面に残すと共に次回支援に繋がるよう課題や活動内容、提示法等の検討を行っている。	なし
18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	2	0	・書面にて記録をとると共にデータとしても残し、次回以降の支援に繋げている。	なし	
19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	・指導員の記録している振り返りシートとサービス提供記録に必ず目を通し、子どもの活動時の様子をモニタリングし、課題の見直しに繋げている。	なし	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5年 5月 14日

公表:令和 5年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2	0	・主に児発管が出席し、場合に応じて必要な指導員が出席している。	なし
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3	0	・ケースに応じて複数の関係機関と連携している。	なし
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	/	なし	・医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの通所が今のところない。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	/	なし	・医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの通所が今のところない。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4	0	・個別ニーズに応じて、保護者を介して、個別支援計画書の共有等を行っている。	なし
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	5	0	・個別ニーズに応じて就学支援シートや指導計画書等を通じて情報共有を行っている。	なし
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	0	・専門機関の主催する研修や見学会に幅広い職員が参加できるよう調整し、療育スキルや知識の向上に繋げている。	・今後も必要に応じて連携を図っていく。
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	0	なし	・通所している児童は概ね保育所等に通っているお子様が殆どの為、保育園や幼稚園で障がいのない子どもと活動してからの来所なので、今のところそのような機会を設けていない。
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	4	0	・協議会や地域連絡会には、機会があれば主に児発管が積極的に参加している。	なし
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	2	0	・毎時のフィードバックの際や個別支援計画書の更新面談の際等に、お子様の課題や近況等についての情報共有を図っている。	・職員全体が最新の情報を把握できるよう、職員間での連携強化を進めると共に、保護者からの相談などがあつた際には柔軟な対応や提案が出来るよう努めて行く。
30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	4	0	・個別の相談事項に対して、助言やアドバイス等を行ったり、保護者会を通じて専門職員(作業療法士)の研修やグループワークを行った。	・ペアレントトレーニングという形での実施は無い為、今後、研修などを通して職員のスキルアップと知識の向上を図り、将来的に実施出来るようにして行く。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 5月 14日

公表: 令和 5年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	0	・契約書と重要事項説明書の内容については、契約時に直接説明を行い、その場で疑問点などがあれば解消できるようにしている。運営規定については、親御様が自由に閲覧できるファイルを用いて周知している。	なし
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0	・児童発達支援の提供すべき支援のねらいに基づき、6ヶ月以内に1回作成し保護者から同意を得ている。	なし
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	0	・面談以外でも、ご相談があれば適宜丁寧な対応を心掛けている。また必要に応じ改めて時間を設けている。	なし
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	0	・今年度は令和4年10月に保護者会を実施した。	・今後は、コロナの情勢や保護者ニーズを踏まえながら開催の検討をして行く。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	0	・相談や申入れがあった際には適宜、適切かつ迅速に対応をしている。	なし
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	3	0	・定期会報は発行していないが、特別プログラムのご案内や保護者会の様子等は、掲示物を作成すると共に公式LINEを通じて、情報発信を行っている。新入社員紹介や連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。	・必要に応じて、今後ホームページ上でも発信していく。
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0	・個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等はカギ付き書庫の中に保管し、処分する時はシュレッダーしている。	・個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じ検討していく。
	38	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	2	0	・口頭のみならず、書面で伝える等、先方の事情を考慮し対応している。	なし
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	4	2	1	・令和5年3月に、他社と合同での地域交流イベントを実施した。	・今後は、コロナの情勢や保護者ニーズを踏まえながら開催の検討をして行く。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 5月 14日

公表: 令和 5年 5月 31日

事業所名: KIZUNA柴崎駅前

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	0	・緊急時対応マニュアル及び感染症対応マニュアルは、保護者閲覧用ファイルにて周知できるようにしている。	なし
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	・年2回実施している。	・今後も年に2回、定期的に行っていく。
	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	2	0	・服薬や持病の情報は提供記録に記載し、てんかん発作等の配慮が必要なお子様はミーティング時に毎時確認している。	なし
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/	/	・アレルギーがあるお子様については、提供記録に記載し、毎時確認出来るようにしている。	・現在、食事提供の機会はなく、また医師の指示書があるご利用者様の該当もないが、今後あれば指示に基づき対応していく。
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	・事例発生時にはその都度記録し、全職員で共有すると共に、今後の対応策を話し合い、実践している。	なし
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	・東京都の権利擁護、虐待防止研修に参加した職員が全体へ周知、共有する為に事業所内で研修を行っている。 ・虐待防止に関わるセルフチェックを全職員に対して定期的の実施している。 ・法人単位で虐待防止委員会を設置し、代表者が参画し、整備を進めている。	・今後も年に2回の虐待防止に関わる全職員のセルフチェック及び事業所内での虐待防止研修を行っていく。 併せて虐待防止委員会に於ける指針整備を法人単位で進めて行く。
46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	2	0	・法人単位で身体拘束適正化委員会を設置し、代表者が参画し、指針整備を進めている。	・身体拘束の適正化については運営規程に明記し、研修等の機会を通じて職員にも周知することで適切な対応を図って行く。保護者に対しても必要のある児童の個別支援計画書に記載し、契約時にお伝えして行くようにする。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。